

北斎遊泳

高島清子

盆が近い夜であった

六粒団子むっつぽを作っておくれ

迎えに来る足音が聞こえるから

そう言ったのは私の知らない母の母である
靈感というものが母に少しはあったらしく
盆が近づくとその話が出た

いま裏の野原に行ってきた

ああせいせいとしたよ

私の幼年の夢では
いつでも地面を軽くひと蹴りすると
空に逃げる事ができた

もう一人空を飛んだ人がいた

人魂で行く気散じや夏の原

(北斎)

神奈川沖波裏の人が

この世に置いていった言葉のよろしさ

人魂ドローンが気ままに空を行き交う今では
北斎のセンスも少し霞む

私の七月は生と死が行き交う月だ
あの世とこの世の回転ドアを
うっかり押したせいで

行ってしまったか
来てしまったか

六粒団子は六道の辻に置くものである
それぞれが訳あつて
満天の星空が暮れていく